

将来ずっと使える溶剤選択

〈大阪府大阪市〉 丸 富株

溶剤高騰対策でホットドライ機

環境にやさしいもテーマ

『シリコーン』導入

溶剤選択において今、大きなテーマとなっているのは、まず「環境対応」である。現状のコンパイル、シリコーン、アンズ（法令順守）は、VOCを削減する。今後はVOCやCOの排出削減も求められる状況であり、将来にわたって環境に優しいかが選択の前提となっている。そして、もう一つは「コスト」。この二つの石油系溶剤の高騰に加え、溶剤回収への取り組みが急速に進んでいる。もはや石油系は安い溶剤ではなく、回収しなければ経営を圧迫する時代になった。そのテーマを踏まえ今回は、石油・コールド機を、



田村義昭社長

ライン増設に効果的な溶剤としてシリコーンを選択した事例を紹介する。

大阪市、西宮市で直営21店舗・取次29店舗を展開する丸富株（本社・大阪市西淀川区、田村義昭社長。同社は昭和37年、現会長の前出富夫氏が創業。田村社長は第一働業。銀行（現すほ銀行）の「現行マシ」だが、平成4年（夫の父）の事業である、同社に専務として入社した。現在は職人に頼った古い体制のクリーニング工場、その社内を改革することが入社後の条件。前掲したという田村社長、最初の仕事は「ケムはたらかした」に任された。これも、い、従業員には障子となく何かあればすぐに報



▲繁忙期前に1ラインを増設。既存ラインより高い生産性を誇る
▼丸富の本社工場



▲今年3月に導入したシリコーン・ホットドライ機



告、割合をよって徹底する。このため社内では「高騰を回避し、工場スタッフは職人からパートに切り換えた。営業では、お客様を飽きさせない日付け、ロットライン、ム、パレット化戦略、インショップ中心の直営展開、宅配、最近では自タ生産方式の導入、QC活動、無人受付システムなど、次々に手打った。この改革に加え、平成10年まで業績がシラケた店が伸びるまで既存紙でも最中の伊藤昌哉氏を講師として研究室を立ち上げ、その考え方を同業者者にも学び、現場改善を取り組んだ。」「即上げが定着した。そのスピードが品質を落とすという消費を急がせてきた。また、着た洗う時代から汚れたら返す傾向も変わってきた中で自分なりに、着た洗う時代に合わせた。昨年春は夜11時まで残業の日も多かった（次ページへ）

▲4年前から自タ生産方式を実践。仕上げはラベルレスなパレル仕様の機械が並ぶ

決める方法を模索していた先に、自タ生産方式の考え方がクリとはまった。また、「洗ってもアイロン仕立も家事をこなす女性で分定するのだから、工場スタッフは職人からパートに切り換えた。営業では、お客様を飽きさせない日付け、ロットライン、ム、パレット化戦略、インショップ中心の直営展開、宅配、最近では自タ生産方式の導入、QC活動、無人受付システムなど、次々に手打った。この改革に加え、平成10年まで業績がシラケた店が伸びるまで既存紙でも最中の伊藤昌哉氏を講師として研究室を立ち上げ、その考え方を同業者者にも学び、現場改善を取り組んだ。」「即上げが定着した。そのスピードが品質を落とすという消費を急がせてきた。また、着た洗う時代から汚れたら返す傾向も変わってきた中で自分なりに、着た洗う時代に合わせた。昨年春は夜11時まで残業の日も多かった（次ページへ）